

- 特定非営利活動法人Uは、正社員が約20名、パート社員が約5名の福祉事業所である。シルバー人材センターからの紹介者や派遣社員の方を合わせると、常時約50名程度が勤務している。
- 障がい者の就労支援を主な目的としていることから、正社員にとっての業務内容は、障がい者とともに勤務を行い、その過程で障がい者に就労のために必要な知識・スキルを指導したり、相談に応じたりすることである。指導対象の障がい者数は時期により変動するが、50名程度である。
- 業務内容は、その時々には様々な企業から委託される軽作業が中心であり、例えば野菜や佃煮のパッキングや、パンの製造、商品へのシール貼付などである。
- 同事業所では、他の企業をドロップアウトして勤務している20～30歳代の正社員が実に10名以上である。これは、法人の代表の思いでもあるが、**“障がいを持った方を就労できるまで指導・支援しなくてはならない”**という仕事柄、一度企業で勤務した経験

のある者でなければ、“会社で働く”ということがどういうことなのか、実感を持って指導できないからである。福祉専門職の方はどうしても最初から福祉関連の職場に就労している方も多く、それ以外の仕事を知らないのでは実にはしっかりした指導はできないと感じている。

- また、**ドロップアウトした人は、挫折を感じたり、大きな失敗をしていたりすることもあり、前の企業や世の中に対して不満や疑問を持っている人が多く、だからこそ障がい者の方の気持ちが他の人よりも理解でき、深い指導・支援ができていていると感じている。**
- 場合によっては、ドロップアウトした人は色眼鏡で見られることもあるが、同事業所のようなところでは、むしろその経験こそが活かされている。